

SINSHU
SUZAKA
2020.9.1

須坂の 町並み だより

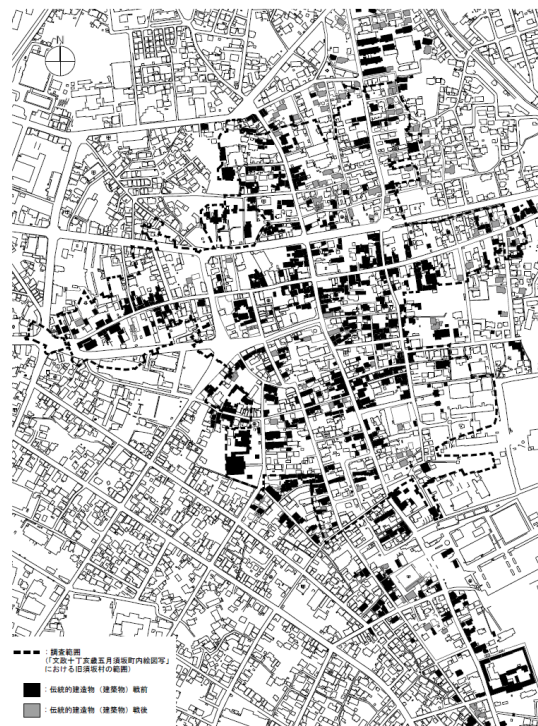
No.6

今回は、伝建調査報告書の発刊と製糸結社「東行社」についてです

■「伝統的建造物群保存対策調査報告書」ができました！

須坂市では文化財保護法の『伝統的建造物群保存地区（通称：伝建）』制度により、歴史的な町並みを守り、町並みを活かした地域の活性化を進めるため、平成29年から伝統的建造物群保存対策調査を実施してきました。地域住民の皆さんのご協力をいただきながら建物や町並みの調査を進め、この度、調査報告書が完成しました。

歴史的な建物の特徴や間取り、町並みの変遷、ばたもち石積みの分布などについて、多くの写真や図表を使ってわかりやすく解説しています。

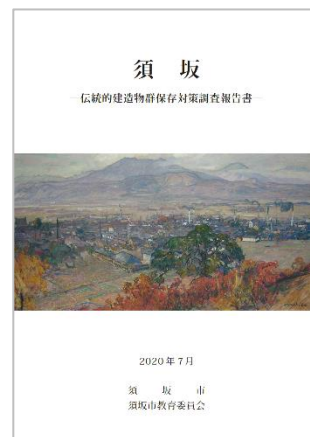


報告書より P34 「伝統的建造物の分布」

伝統的建造物の現存数や建築年代など、町並みの具体的な現況と、その歴史的・文化的価値を明らかにするとともに、伝統的建造物群の保存構想についてもまとめ、伝建地区選定に向けた第一歩となる調査報告書です。

ぜひ多くの皆さんに読んでいただき、伝建地区選定を目指す取り組みを応援していただけたらと思います。

一般販売の予定はありませんが、市内各施設（図書館、文書館、各地域公民館、ふれあい館まゆぐら、旧越家住宅、旧小田切家住宅）、文化スポーツ課、まちづくり課、政策推進課閲覧コーナーなどでお読みいただけます。



裏面へつづく



■日本で最初の“製糸結社”東行社

町並みめぐりや観光の拠点となっている、長野県宝・旧小田切家住宅。その主^{あるじ}だった小田切辰之助が中心となって、明治8年に設立された“製糸結社”東行社についてご紹介します。

- そもそも「結社」とはなんですか・・・共同体、共同組織のこと
- 個人の製糸家が「結社」となる必要性について
 - 1 製糸業は、生糸の価格の変動が激しく“生死業”と揶揄されることがあるほど浮き沈みの激しい産業であった。そこで個人経営者が結集して共同体となることで支え合い、倒産を防いだ。
 - 2 まとまることで水車を動力とする器械製糸を導入することができた。
 - 3 生糸を集めることで品質を揃えるとともに、大量に出荷することが可能となった。

以上をふまえて 明治8年(1875)に「東行社」が設立

※ 名前の由来について

それまで生糸の多くは英国・ロンドンへと輸出されていましたが、須坂の製糸家たちはいち早くアメリカという市場に目をつけました。日本からみると東の果てはニューヨーク。「自分たちはアメリカを相手に生糸を出荷しよう」という気概を込めて“東へ行く”という名をつけたといわれています。

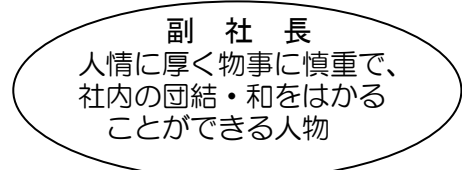
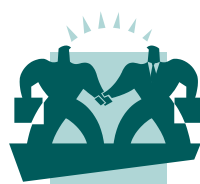
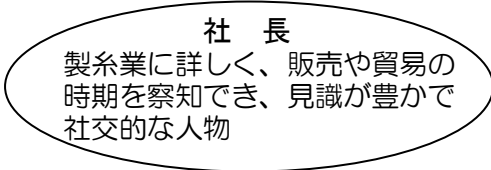


アメリカではシルクストッキングに加工され多くの女性の足元を美しく飾った。

●「東行社定則」20条

東行社が何を目指し、どんな方針で経営にあたるのかを具体的に定めたもので、ここには、何事においても十分に議論を深め、多数の意見によって議決し、いったん決めたことには従うという民主的な運営方針が貫かれています。東行社設立に結集した製糸家たちは、私の利益よりも共同の利益・結社の利益を優先するという立場に立ち、製品の品質の統一と共同大量出荷の徹底をはかろうとしていました。

※ 第5条で社長・副社長にどんな人がふさわしいか詳しく定めている点がおもしろい。



●東行社設立に参画した若手製糸家たち

東行社は明治10年(1877)に内務省から正式認可を得ましたが、当時の役員は20代・30代の若い製糸家が中心でした。設立に中心的な役割をはたした小田切辰之助は38歳、資金面で支援をした牧新七(後の須坂銀行頭取)は29歳。製糸業という当時はまだ不安定だった新興産業に積極的に参画した若き製糸家たちからは、新時代を切り拓こうとする熱意と気概が感じられ、胸が熱くなります。

▼町並みの古写真を探しています▼



明治から昭和40年代までの歴史的な町並み(大字須坂辺り)が写っている古い写真を集めています。今後町並みを整えていくための貴重な資料です。ご自宅にお持ちの方は是非ご連絡ください。なお、写真は複写した後にご返却します。

まだまだコロナ禍の影響色濃い今日この頃ですが、皆さまご健康にお過ごしでしょうか。

2019年度末に予定していた調査報告書の刊行もコロナの影響でだいぶ遅れてしまいました。苦心惨憺しつつようやく発行となりましたので多くの皆さまにお読みいただけましたら幸いです。

編集・発行・問合せ
須坂市社会共創部文化スポーツ課
☎026-248-9027
まちづくり推進部まちづくり課
☎026-248-9007